

「原水爆禁止2020世界大会」へのメッセージ

1945年に広島・長崎に原爆が投下されてから、75回目の夏を迎えました。世の中から戦争をなくし、真の恒久平和を実現することは、人類すべての願いであります。

我が国は世界で唯一の核被爆国であり、私たちはあらゆる機会を通じて戦争の悲惨さ、そして核兵器の廃絶、世界平和の実現を世界に訴えてまいりました。

さて、国連で核兵器禁止条約が採決されてから3年が経過いたしました。朝鮮半島や中国とインド間での軍事的緊張の高まりや、不透明感を増すアメリカ合衆国とロシアとの核軍縮協議など、人々の平和な社会の実現に向けた想いに逆行する動きが強まってきております。

また、今なお世界には多くの核兵器が存在し、毎日どこかで醜い争いが起こっており、「核兵器のない世界」の実現にはほど遠い状況です。

現在、世界中に新型コロナウイルス感染症が猛威を振っておりますが、その中で命の大切さや一人ひとりの正しい行動がもたらす力の大きさが注目されております。我々はこの機をとらえ、改めて平和の大切さを再認識し、無益な争いやテロの根絶など、一步一步着実に前に進んでいかなければなりません。

例年開催されます原水爆禁止世界大会は、核兵器の悲惨さを全世界に伝え、その非人道性を訴える活動として大変意義深い大会です。本市といたしましても、さまざまな機会を通じて、核兵器の廃絶、戦争や争いがもたらす悲劇、そして平和の大切さを世界に訴え、皆様とともに歩んでまいり所存です。

私たちの願いが世界中に届き、核兵器の廃絶、そして真の世界平和が一日も早く実現することを心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

下関市長 前田 晋太郎

原水爆禁止 2020 年世界大会の開催に当たり、メッセージをお送りします。

1945 年の被爆から 75 年を迎えましたが、今なお被爆者やその関係者が被った傷跡は、心身ともに深く刻まれています。

今年は、5 年に 1 度の核拡散防止条約の再検討会議が開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、延期となっています。

このようなときだからこそ、核兵器廃絶や平和で安全な世界の実現への議論を止めてはならず、世界恒久平和の実現のために平和の尊さを心に刻み、広島・長崎の悲劇が二度と繰り返されることのないよう、世界中の人々が努力していくことが大切であると思っております。

今後とも、皆様方の活動の輪がより一層広がりますこと、そして大会の御成功を祈念いたしまして、メッセージといたします。

令和 2 年 8 月

岩国市長 福 田 良 彦

2020年原水爆禁止世界大会メッセージ

広島・長崎では、原子爆弾が投下されてから75回目の夏を迎えます。

世界で唯一の戦争被爆国である我が国は、後世に戦争の悲惨さを伝えるとともに、「核兵器のない世界」の実現に向け、核兵器の使用の惨禍を訴える責務を有しています。

本市では、平成18年に市議会において「非核平和都市宣言」が議決され、また、平成22年には「平和首長会議」に加盟し、平和行政の推進に取り組んでいます。

国際情勢をみますと、新型コロナウイルスに関する米中の関係悪化や脱北者のピラ散布に関する北朝鮮と韓国の対立の激化など、日本を取り巻く各国の緊張が高まっており、平和体制づくりに影が差している状況です。

こうした中で開催されるこの大会は、核兵器の非人道的影響の認識を共有し、「核兵器のない世界」に向けた結束を固め、核軍縮の原動力として私たちを導いてくれるものと確信しています。

令和2年(2020年)8月

原水爆禁止世界大会実行委員会 様

山陽小野田市長 藤 田 剛 二

〒742-2192 山口県大島郡周防大島町小松 126-2
周防大島町役場 周防大島町長 椎 木 巧
e-mail shiiki.takumi@town.suo-oshima.lg.jp
tel 0820-74-1000 fax 0820-74-1016

周 防 大 島 町

7/30/2020

核兵器を廃絶し、恒久平和を実現することは町民すべての願いであり、戦争による惨禍を二度と繰り返さないことを誓うものがあります。しかし、今なお世界各地では内戦や紛争による生命の尊厳を脅かす行為が繰り返され、核兵器はいまだ人類にとって大きな脅威であります。戦後 75 年にあたり真の恒久平和を訴えるメッセージを発信し続けてまいります。

周防大島町長 椎 木 巧
